

# 令和5年度 諫早市在宅医療・ 介護連携支援センター運営事業 活動報告書

一般社団法人 諫早医師会  
諫早市在宅医療・介護連携支援センター  
(かけはし いさはや)

## 事業の目的

要介護者等が、住み慣れた地域で在宅生活の継続に必要な医療と介護サービスを円滑に提供できる体制を構築するため、専門職から在宅医療に関する相談に対して支援を行います。

また必要な情報を発信するなど、医療と介護事業者の連携をサポートすることを目的としています。

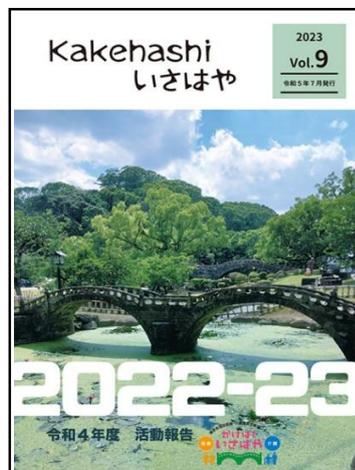
諫早市在宅医療・介護連携支援センター  
TEL : 46-3166 FAX : 46-3167



## 令和5年度 主な取り組み

### 「Kakehashi いさはや」情報誌の発行（継続）（資料1）

情報紙発行4年目となり、関係機関に対し「かけはしいさはや」の役割や活動内容、また専門職の皆さんの視点から、相互に理解し合い、医療と介護の連携の一助となるよう情報紙を発行しています。



### VOL.9

- 令和4年度当センターの活動報告書の概要を掲載しました
- 在宅医療・介護関係者研修会を開催しました  
「神経難病患者の在宅医療について」 権藤雄一郎先生
- 在宅医療と介護の市民講演会を開催しました  
令和5年3月25日（土） 於：長田みのり会館
- 令和5年度 研修会予定



### VOL.10

#### 【特集】その人らしい新たな暮らしに向けて

##### ～訪問リハビリテーション～

理学療法士、作業療法士、言語聴覚士の皆さんに在宅医療における訪問リハの役割などを伺いました

- 在宅医療・介護関係者研修会を開催しました (P6参照)  
◎「リハビリテーション薬剤-生活を支える薬物療法のキホン-」 池田理恵先生  
◎「諫早市のACPの取組み」  
市地域包括ケア推進課 林田優二さん
- 在宅医療と介護の市民講演会を開催しました (P8参照)  
令和5年10月14日（土） 於：小長井文化ホール



### VOL.11

#### 【特集】相談内容を振り返る

##### ～見えてきた現状と問題点～

相談内容を「日常の療養支援」「入退院支援」などの4つの場面に分類し、問題点やその背景を報告しました

- 在宅医療・介護関係者研修会を開催しました (P7参照)  
「お口の気づきから連携を考える」 増山隆一先生
- 在宅医療と介護の市民講演会を開催しました (P9参照)  
令和6年2月10日（土） 於：小野ふれあい会館



在宅医療に関する専門相談や退院時の相談支援に必要な情報収集のため、医療機関や介護事業所、高齢者施設にアンケート調査を実施し、ホームページに掲載している情報を更新しています。 ホームページ掲載

### 取り組み内容

#### (1) 情報の更新

- ① 医療機関の情報更新は、三師会の協力を得て年1回更新を行った。(資料2)
- ② 介護事業所情報は、長崎県長寿社会課のデータを基に半年に1回更新した。(資料3)
- ③ 高齢者施設情報は、長崎県長寿社会課のデータを基に半年に1回更新した。(資料4)
- ④ 高齢者施設（軽費老人ホーム、有料老人ホーム、サービス付き高齢者向け住宅、認知症対応型共同生活介護（GH）の事業所に対し医療処置があっても入居可能なもの、看取り対応、費用、施設PRなどアンケート調査を実施して情報を更新した。

#### 【地域資源情報一覧掲載件数】

在宅医療機関	59件	訪問看護ステーション	21件
訪問歯科医院	42件	居宅介護支援事業所	50件
訪問薬局	53件	訪問介護事業所	38件
通所リハビリテーション	20件	小規模多機能型居宅介護	7件
訪問リハビリテーション	8件	ショートステイ（短期生活）	17件
デイサービス事業所	45件	ショートステイ（短期療養）	14件
地域密着型デイサービス事業所	39件	巡回訪問	1件
認知症対応型デイサービス事業所	6件	福祉用具販売	10件
訪問入浴	1件	福祉用具レンタル	11件

#### 【高齢者施設一覧掲載件数】

介護療養型医療施設	3件	○有料老人ホーム	17件
介護老人保健施設	4件	○サービス付き高齢者向け住宅	16件
介護老人福祉施設	8件	○軽費老人ホーム	4件
地域密着型介護老人福祉施設	8件	○認知症対応型共同生活介護	24件
介護医療院	3件	※○は費用や通院送迎など詳細を表示	

#### (2) 社会資源情報の追加

昨年度の相談から、市内の介護タクシー・福祉タクシーの各事業所の詳細を調査し、事業所毎に掲載した。(資料5)



### 成果と課題

アンケート調査により情報の更新に努め、施設や事業所等の情報提供や相談対応に活用した。介護タクシー・福祉タクシーの情報は医療連携室等から活用していると評価をうけた。施設情報もケアマネジャー等から活用しているとの声をいただいているが、他にも必要な情報はないか、ケアマネジャー等の意見を聞きながら、社会資源の把握に努める。

## イ 在宅医療・介護連携の課題の抽出と対応策の検討

### 取り組み内容

諫早市内居宅介護支援事業所アンケート調査（資料6）

- 目的 別紙調査票により事業所の詳細等(従業員数など)を把握し、併せて、事業所等における在宅医療・介護連携に関する課題等について収集・整理する。
- 調査期間 令和5年9月～12月
- 調査対象 市内にある居宅介護支援事業所 50か所
- 調査方法 事前にアンケート調査票を送付、その後各事業所を訪問し、聞き取りをおこなった。
- 概要 在宅医療と介護の連携をイメージした4つの場面、「日常の療養支援」「入退院支援」「急変時の対応」「看取り」を想定した取組みが必要であるとしている。  
各場面において実情や日頃から感じていること、気づきなどを聞き取り、取りまとめた。また、取りまとめた意見の中から、4つの場面ごとに課題となるものを抽出し、まとめている。

### 成果と課題

全居宅介護支援事業所の聞き取りから、各場面においての問題点があがってきた。  
また、入退院支援ガイドブックについては医療介護連携の効果的なツールとして認識されていることもわかった。  
集約した意見等から社会資源情報収集への活用、研修会・多職種意見交換会等のテーマとするなど活かしていく。また、在宅医療介護連携推進会議等で報告し、情報共有する。

## ウ 切れ目のない在宅医療と介護の提供体制の構築推進

### 取り組み内容

- ①「CM語らん場」（南部地域包括支援センター主催）
- 日時： 令和5年12月12日(火) 13:00～15:00
- 参加者： 18名
- 内容： 南部地域包括支援センターの呼びかけで、圏域の「CM語らん場」は初めての試みで、それぞれの事業所やケアマネが抱える悩みや共通のテーマについて、情報を共有し、気軽に話し合う場を提供していた。  
次回からは、キーパーソン不在の利用者支援などテーマを設定した「CM語らん場」が開催される。
- ②北部圏域居宅介護支援事業所研修会(北部地域包括支援センター主催)
- テーマ： 1) 高齢者虐待への対応について  
2) 障害サービスから介護サービスへの移行に伴う課題等について意見交換
- 日時： 令和6年2月16日(金) 13:30～15:00
- 参加者： 12名
- 内容： 高齢者虐待について、“養護者”の定義から虐待対応など説明。  
障害サービスへの移行については、サービス量の違いなどから、利用者・家族の理解が得られず対応に苦慮している現状や、それぞれのケアマネが経験したケースについて意見交換が行われた。

### 成果と課題

各圏域ごとに居宅介護支援事業所が集まり、意見を交わす場があることで、居宅介護支援事業所間のつながりが地域包括支援センターを中心に作られていた。ケアマネジャーが業務の中でどのようなことに困っているのか、声を聞くことができ、大変有意義な時間であった。定期的に参加し、継続した情報交換等を行っていきたい。

## 才 在宅医療・介護連携に関する相談支援

居宅介護支援事業所や医療連携室などの医療・介護関係者、関係機関から医療機関情報や在宅医療等に関する相談に対して、情報提供や助言に努めました。(参考1)

相談内容		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
相談区分	合計	4	1	0	2	2	1	1	0	1	3	2	3	20
在宅療養支援	①医療等に関する相談	0	1	0	0	0	0	0	0	1	2	1	1	6
	②介護等に関する相談	3	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	5
	③短期入院・入所に関する相談	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	④看取りに関する相談	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
転・退院支援	⑤医療情報に関する相談	1	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	3
	⑥介護情報に関する相談	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	2	4
その他	⑦苦情・クレーム	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	⑧その他	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	2

相談者		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
相談者区分	合計	4	1	0	2	2	1	1	0	1	3	2	3	20
ケアマネ	居宅介護支援事業所	2	1	0	1	0	0	1	0	0	0	0	1	6
医療関係者	病院、医院	2	0	0	1	1	0	0	0	0	2	0	1	7
	診療所（歯科含む）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	薬局	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	訪問看護ステーション	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
事業所	在宅サービス事業所	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	施設サービス事業所	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
関係機関等	地域包括支援センター	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	行政機関	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
	市民	0	0	0	0	1	0	0	0	1	1	2	0	5
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1

### 取り組み内容

地域の医療・介護関係者等から、在宅医療や施設情報に関する相談を受けた。

医療処置が必要な利用者が入居できる施設情報、透析時、通院送迎ができる施設や入所可能な施設情報などの対応した。

市民からの相談は6件で、必要な情報の提供や関係機関を紹介した。

### 成果と課題

相談件数は20件。

透析中の方に関する施設情報については、毎年相談がある。諫早市内の施設への入所が難しく、市外の施設へ入所を検討するケースもあった。透析の通院送迎ができないため、受け入れができないという施設が多く、この点については、「透析治療中の方の支援」における問題点として在宅医療・介護連携推進会議で報告した。

今後も相談内容・対応を整理し、問題点の抽出やその後の相談対応へ活かしていく。

**第1回** テーマ 「リハビリテーション薬剤 生活を支える薬物療法のキホン」

開催日 令和5年9月28日（木）19:00～20:00  
 講師 こはく堂薬局 管理薬剤師 池田 理恵先生  
 会場 オンライン開催  
 参加者 49名



**【講演内容】**

薬によって、生活機能の低下を招いてしまうこともあるということや、その時にどう対応すればいいのか、大変詳しく説明していただいた。

『暮らしが先に来る思考回路』で患者・利用者を見る、話を聞くことが重要視されていると感じた。参加された方の中にはリハビリテーション薬剤という言葉は初めて聞く方も多く、新しい知識を得ることができた。

**【参加者からのご意見】**

- ・薬剤に関する受講を受けることで、利用者が使用している薬剤を定期的に確認するようになりました。リハ薬剤に関しては、初めて聞く言葉でしたが新しい考え方を学ぶことができました。薬とは、症状の改善だけでなく、副作用で、暮らしの質が落ちてしまうものだと改めて考えさせられました。
- ・介護職で知らないことが多く、大変参考になりました。

職種	人数
医師	1
歯科医師	2
薬剤師	13
看護師	15
ケアマネジャー	11
MSW	1
栄養士	1
理学療法士	3
生活相談員	1
ヘルパー	1
合計	49

**第2回** テーマ 「諫早市のACPの取組み」

開催日 令和5年10月23日（月）19:00～20:00  
 会場 ハイブリッド開催  
 参加者 66名(会場31名・Web35名)



**【講演内容】**

諫早市の地域包括ケアシステムの構築状況や在宅医療・介護連携推進事業等の取組みについて説明があった。その後、これまで市民や専門職に実施したアンケート結果の報告やACPの冊子「いつか来る自分の最後を考えてみませんか？」を実際に記載してもらい、”自分だったら”と体験してもらいながら、現場での実践に役立てていけるような研修会となった。

**【参加者からのご意見】**

- ・自身の最後の過ごし方を考えたときに、残された家族が同意してくれるかを確認していないことに気づきました。利用者様との関係性ができたときに小冊子を紹介することで話の糸口になると思います。
- ・日頃「死」を意識して過ごしていません。しかし、誰にでもいつか起こることです。「死」に対しては、悲しいマイナスのイメージですが、身近な人とACPを行うことで、より良く生きることが出来ると感じました。

職種	人数
医師	4
歯科医師	1
薬剤師	3
看護師	18
ケアマネジャー	17
MSW	4
栄養士	1
社会福祉士	1
理学療法士	3
歯科衛生士	1
介護職(介護福祉士)	2
生活相談員	1
ヘルパー	5
管理者	3
事務職	2
合計	66

**第3回** テーマ 「お口の気づきから連携を考える」

開催日 令和5年11月24日（金）19:00～20:00

講師 増山歯科医院 院長 増山 隆一先生

会場 オンライン開催

参加者 44名



**【講演内容】**

利用者の口腔内を見ることや何か気づいたら歯科医に相談することが、『ハードルが高く難しいのではないか』という視点から、改めて口腔内を確認する必要性について、詳しくお話しいただいた。自ら訴えることができない患者・利用者に対して、どのような視点でみるとよいのか、また、口腔内の気づきを歯科医師会に相談する方法の提案などもあり、歯科領域との連携を強化していく必要性を感じた。

**【参加者からのご意見】**

- 口腔内の健康が、身体の健康にもつながることを再認識しました。
- 気になる利用者がいますので、早速お口のチェックをしようと思いました。
- 口腔内だけでなく、口周辺の発赤腫脹等見逃さず、関連づけて観察していくことも必要ということ、観察の視点も広がった。

職種	人数
医師	1
歯科医師	5
薬剤師	4
看護師	5
ケアマネジャー	10
保健師	3
理学療法士	3
言語聴覚士	1
歯科衛生士	5
介護職(介護福祉士)	3
生活相談員	1
ヘルパー	1
管理者	1
事務職	1
合計	44

**第4回** テーマ 「在宅医療における眼疾患について」

開催日 令和6年3月28日（木）19:00～20:00

講師 やまもと眼科 院長 山本 広樹先生

会場 オンライン開催

参加者 36名



**【講演内容】**

眼は私たちの生活に大きな影響を与える器官で、高齢になると見えにくさなど不調を訴える利用者や患者も多い。

高齢者に多い疾患別に、どのようなことに気を付ければいいのか、詳しく説明いただいた。内服と同じように点眼がきちんとできているのか確認することや、見え方の確認は片目ずつ行うなど、すぐに実践できる内容も含まれ、これからのアセスメントに活かせる内容であった。

**【参加者からのご意見】**

- 目をテーマにした研修は初めてで、とても参考になった。病気の種類の説明をわかりやすかった。今後利用者から訴えがあったときは点眼の大切さなど参考にしていきたい。
- 眼のことは意外に気づかない。知らないうちに片眼失明されてたこともあり、改めて大切さを感じた。

職種	人数
医師	1
薬剤師	5
看護師	6
ケアマネジャー	21
ヘルパー	2
管理者	1
合計	36

## キ 地域住民への普及啓発

### ① 医療と介護に関する市民講演会の開催（資料8）

医療や介護が必要になっても、住み慣れた地域で安心して生活ができる「在宅医療」について理解を深めてもらうことを目的に、三師会の先生方及び市地域包括ケア推進課と連携し、市民講演会を開催しました。

[ホームページ掲載](#)

【テーマ】 在宅医療ってなあに？～あなたを支える医療と介護～

#### 第1回 市民講演会

令和5年度 在宅医療と介護の市民講演会  
**在宅医療ってなあに？**  
—あなたを支える医療と介護—  
**7月8日(土)**  
14:00～15:30  
(受付13:00～)

【講演プログラム】  
「介護保険サービス利用までの流れ」 黒木 敬治 様  
「在宅医療について」 山崎 善之 先生  
「人生100年時代～幸せと健康を支えるお口の話～」 ヒカリデンタルクリニック 原美和子 先生  
「薬剤師も在宅へ訪問します！」 森本 裕志 先生

【お申込み先】  
電話: 46-3166 FAX: 46-3167  
〒250-0292 静岡県沼津市  
沼津市市民センター 1階 市民ホール  
URL: <https://kakeeshi-itahaya.com/>

【日 時】 令和5年7月8日(土) 午後2時から3時半まで

【会 場】 小長井文化ホール

【参加者】 49名

【講 師】 介護保険課 黒木敬治様

「介護保険サービス利用までの流れ」

山崎病院 山崎善之先生

「在宅医療について」

ヒカリデンタルクリニック 原美和子先生

「人生100年時代～幸せと健康を支えるお口の話～」

そうごう薬局小長井店 森本裕志先生

「薬剤師も在宅へ訪問します！」

#### 講演内容

市高齢介護課からは、介護保険サービスを利用するまでの手続きやACPの冊子の紹介があった。

山崎先生からは、たくさんの症例をご紹介いただき、在宅医療は多くの職種がしっかりと連携し、支えていく医療であると講演された。

原先生からは、お口の環境と様々な疾患との関わりが定期受診の大切さや訪問歯科診療について、森本先生からは在宅医療における薬剤師の役割や実際の服薬支援、かかりつけ薬剤師を持つことについて、講演された。

#### 【講演会についてのご意見】

- そろそろ終活を考えなければならない年齢になりつつあります。しっかり考えていきたいと思えます。
- これから介護する側、される側になるため、本日の講演は非常にためになりました。家族とも元気なうちに話をしていきたいと思えます。
- 在宅医療や介護について、身近に感じることができました。
- ぎりぎりまで自宅で過ごしたいと切実に考えています。訪問看護師さんやヘルパーさんの関わりについてもお話を色々お聞きしたいです。



## キ 地域住民への普及啓発

### ① 医療と介護に関する市民講演会の開催

#### 第2回 市民講演会

令和6年度 在宅医療と介護の市民講演会  
**在宅医療ってなあに？**  
～あなたを支える医療と介護～  
**2月10日(土)**  
14:00～15:30  
(受付13:00～)

【講演プログラム】  
「住み慣れた地域で自分らしく暮らしていくために」  
～地域包括ケアの取り組みについて～  
講師 地域包括ケア推進課 山下 佳苗様  
在宅医療から看取りまで  
～訪問診療の重要性と在宅医療の現状～  
講師 美南の丘クリニック 院長 松尾 彰 様  
「訪問歯科について」  
医療法人 たなか歯科医院 院長 田中 広海様  
「薬剤師も在宅へ訪問します」  
そうごう薬局 諫早小野町店 八木ひとみ様

【お申込み方法】  
お申込みは、電話にてお申込み下さい。電話:46-3166  
参加費は無料です。お申し込みは、電話にてお申込み下さい。電話:46-3166  
お問い合わせ先: 諫早市在宅医療・介護連携推進センター【住所: 野口・川崎】  
TEL: 0945-31-6161 FAX: 0945-31-6162

【日 時】 令和6年2月10日(土) 午後2時から3時半まで

【会 場】 小野ふれあい会館

【参加者】 52名

【講 師】 地域包括ケア推進課 山下佳苗様  
「住み慣れた地域で自分らしく暮らしていくために」  
～地域包括ケアの取り組みについて

美南の丘クリニック 松尾彰先生

「在宅医療から看取りまで」～最期に穏やかな死を迎えるために

たなか歯科医院 田中広海先生

「訪問歯科について」

そうごう薬局諫早小野町店 八木ひとみ先生

「薬剤師も在宅へ訪問します」

#### 講演内容

地域包括ケア推進課からは、ACP(人生会議)や認知症の取り組みについて、説明があった。

松尾先生からは「動けなくなったらどこで過ごしたいですか?」と質問から始まり、在宅医療とは何かを知ることができ、これからのことを考えるきっかけになる講演であった。

田中先生からは、実際の訪問歯科診療の様子を写真で見ながら、どんな方が訪問診療の対象になるのか、費用はどれくらいかかるのかなど、気になるポイントを講演された。

八木先生からはかかりつけ薬局、かかりつけ薬剤師を持って、普段から薬剤師を活用してほしいという講演だった。

#### 【講演会についてのご意見】

- ・医療のプロ、福祉のプロの話が聞け、介護＝不安・孤独という印象でしたが、相談できることや相談できる場所が多くあり、諫早市の取り組みもわかり、参加してよかったです。
- ・まずは何事も知るということが大事だと思い、本日やってきました。親の遠くない介護のため、色々な知識を得ることができました。とても参考になりました。
- ・自分の終末については、真剣に考えて家族と良く話し合っておくことが大事と改めて思いました。

#### 成果と課題

- ・今年度から30分を時間短縮し、1時間半の講演会とした。内容は変更なく、行政・三師会からそれぞれ講演いただき、講演会後のご意見からも、これからのことを考えるきっかけとなっている。
- ・チラシの全戸配布や回覧板等で周知を図っていたが、集客になかなか結び付いていない。



## キ 地域住民への普及啓発

### ② 医療と介護のお気軽座談会の開催（資料9）

概ね10名以上の地域の団体やグループの市民を対象に、在宅医療や介護への理解を深めてもらうことを目的に、「医療と介護のお気軽座談会」を開催しました。

#### 取り組み内容

##### 【令和5年度開催状況】

開催日	7月13日	8月21日	8月25日	9月26日
会場	西諫早公民館	高天町公民館	正久寺町公民館	白岩町公民館
団体等名称	おとなの楽校	高天町いきいきサロン	正久寺町いきいきサロン	白岩西部いきいきサロン
参加者	10名	8名	12名	21名
開催日	10月20日	11月10日	1月16日	2月15日
会場	ひばりが丘公民館	堂崎(三)公民館	山川中区公民館	田結公民館
団体等名称	ひばりが丘いきいきサロン	堂崎(三)いきいきサロン	いきいきサロン山川	田結すこやか大学
参加者	12名	17名	29名	14名



#### ＜座談会へのご意見＞

- ・改めて考える機会をもらいました。
  - ・主人がしっかり準備をしてくれていたのので、残された私達はとても楽でした。私も子供にしっかり手続きをしておこうと思っておりますが、なかなか手をつけられません。
  - ・高齢者向けのお話し合いでしたが、介護をしていく40～60代の方が聞いた方が良い内容だと感じました。
- ・現在どうにか家族の世話をしながら生活できていますが、これから先の事を考えていけないといけないなと思いました。
  - ・日頃から家族で話しあっておくことは重要なことだと思うので、少しでもこのような機会に触れることができ良かったと思う。

#### 成果と課題

- ・座談会開催にあたり、代表者と会場の事前確認を行い、スムーズな運営につながった。
  - ・参加者と気軽に質問や話し合いができる和やかな場づくりができた。
  - ・多くの市民に普及啓発するためにも、自治会長、民生委員、地域で行われているサロンなど、各団体等へ「お気軽座談会」の周知をしていく必要がある。
- ※これまでの市民講演会やお気軽座談会のアンケートやご意見等を取り纏めた。(参考2)

## その他の業務

### ① 研修会等への参加

職員の資質向上のため、参加可能な研修会（WEB研修含む）に参加し研鑽に努めました。

#### 取り組み内容

##### ＜厚生労働省・県主催研修会等＞

開催日	開催方法	主催	テーマ
7/26	会場	県央保健所	第1回在宅医療・介護連携推進事業関係者意見交換会
10/10	WEB	長崎県長寿社会課	長崎県在宅医療推進のための在宅医療等実態調査結果説明会
10/19	WEB	厚生労働省	在宅医療・介護連携推進支援事業 都道府県・市町村担当者等研修会議
11/30	WEB	長崎県長寿社会課	在宅医療・介護連携体制構築支援事業 データに基づく在宅医療の分析研修会
12/5	会場	県央保健所	第2回在宅医療・介護連携推進事業関係者意見交換会
2/5	WEB	長崎県長寿社会課	講談で楽しく学ぶ成年後見制度
2/17	会場	県央保健所	施設におけるACP取組推進のための研修会
2/29	WEB	厚生労働省	令和5年度在宅医療・救急医療等の連携にかかるオンラインセミナー

## その他の業務

### ① 研修会等への参加

#### <諫早市在宅ケアサークル>

開催日	開催方法	主 催	テ ー マ
4/17	会場	諫早市在宅ケアサークル	新型コロナウイルスへの対応どう変わる
6/19	会場	諫早市在宅ケアサークル	苦しむ人への援助と5つの課題
8/21	会場	諫早市在宅ケアサークル	排泄ケアを深めよう！～おむつの選び方・あて方を中心に～
12/18	会場	諫早市在宅ケアサークル	お口のミカタ～実践編～
2/19	会場	諫早市在宅ケアサークル	ヤングケアラーについて

#### <その他>

開催日	開催方法	主 催	テ ー マ
5/18	WEB	出島塾(出島病院)	地域における出島病院の役割と緩和ケア
6/15	WEB	出島塾(出島病院)	緩和面談・入退院支援 困難事例への対応
7/20	WEB	出島塾(出島病院)	コロナ禍における緩和ケア～当院での取り組み～
8/17	WEB	出島塾(出島病院)	緩和ケア 当院における症例を通して
9/21	WEB	出島塾(出島病院)	せん妄、不眠への対応
10/16	WEB	出島塾(出島病院)	疼痛コントロール
11/16	WEB	出島塾(出島病院)	訪問看護師による看取りと緩和ケア
3/21	WEB	出島塾(出島病院)	当院の退院後訪問における学び
7/25	WEB	長崎市包括まちななかラウンジ	急変時の対応～救急隊からの提言～
10/5	WEB	長崎県看護協会	緩和ケアにおける在宅での看取りと多職種連携の実際
10/25	WEB	長崎市包括まちななかラウンジ	元気なうちから手帳の活用事例Part2～介護支援専門員の工夫と実践～
12/20	会場	長崎県介護支援専門員協会諫早支部	12月定例会「日頃聞けないことを話そう！お互いに知りたい！」
2/6	会場	長崎県介護支援専門員協会	ケアブランデータ連携システム説明会
3/15	WEB	長崎市包括まちななかラウンジ	第2回多職種研修会・在宅医療各種課題検討会④「看取り」

### ② 研修等受け入れ

#### 取り組み内容

県立看護学校専門課程3年生への講義（令和5年10月18日）

テーマ：「在宅療養者の視点で医療介護連携を考える」

県立看護学校（校長 満岡 渉）より、同校専門課程3年生の統合実習の講師依頼があり、在宅医療・介護連携推進事業の一つである当センターの役割などを保健師が説明。

当センターが実際に受けた相談内容や医療・介護関係者向けに行っている研修会、情報誌の発行など、当センターにおける医療と介護の連携に向けた取り組みの紹介を行った。

なお、統合実習は地域包括ケアシステムも学習課題であるため、市地域包括ケア推進課、中央部地域包括支援センターからも講師として協力している。

#### 成果と課題

職種は違っても、同じ目的・目標を持った多職種との連携が取れるよう、病院等の看護師として、在宅医療・介護関係者と共に在宅療養者を支えるという意識、視点を持てるような内容とした。